

# 実態を踏まえ、系統性を図った単元構想

## 単元構想の3つの視点

### 単元の本質

単元の学習内容や育てたい資質や能力をとらえた**系統性**のある単元展開

単元のねらいの明確化

### 実態把握

単元展開や授業に生かせる**実態把握**

つまずきの予測

### 評価計画

**求める子どもの姿**を明確にした評価計画

指導に生かせる評価

## 単元の本質をとらえるには？

- 学習指導要領を基に単元の目標・学習内容を明確にしましょう。特に指導事項、指導内容を具体的に把握することが大切です。
- 1単位時間の目標に系統性をもたせた単元計画を立てましょう。
- 1単位時間のめあてが単元の目標にどのように関わっているかを確かめて適切な言語活動を設定しましょう。

## 実態を把握するには？

- 児童生徒の情意面の実態や、学力状況調査等の分析で実態をデータでつかみましょう。
- 単元の学習に関するレディネステストやアンケート等で単元に関わる学習状況や既習事項をつかんで指導に生かしましょう。
- 普段の授業や生活から一人一人の学習に対する取組や、興味・関心をとらえておきましょう。

## 求める子どもの姿をとらえるには？

- それぞれの教科における単元の指導内容を押さえた上で、具体的な求める子どもの姿をとらえましょう。
- 単元のねらいとの関連を図りながら、言語活動によって一人一人の児童に身に付けさせたい力を明確にしましょう。
- 学習後、児童生徒が何を身に付け、何ができるようになるのか想定しましょう。



### 国語科では

単元を貫く言語活動を設定して、それに関わる言語活動を1単位時間に設定します。相互の関連が大切です。単元の指導計画に明記して授業実践に取り組みましょう。

## 教材研究のポイント！！

- **単元の本質をとらえるには！**  
→ 指導事項を身に付けさせるために**教材を吟味**し、単元を構想します。  
【具体的な教材研究】
  - ・教材の選定
  - ・教材の解釈、分析
  - ・教材と身に付けさせたい力の関連
  - ・単元での教材活用（何を、いつ、どこで）
  - ・他教材との比較 等々

### 具体的な手立て

- **言語活動ありきではありません！**  
→ 児童生徒の実態、育てたい力を明確にして、単元の目標にあった最適の言語活動を選定し指導過程のどこに位置付けるか検討してください。



### ぜひ、参考にしてください！

- ・小中学校学習指導要領解説（文部科学省）
- ・評価規準の作成 評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）

# イメージからプランへ 教え込むから学び取るへ

☆ 単元の目標をもとに1単位時間の系統性を図りながら言語活動を設定し、児童生徒の実態にあわせて、求める子どもの姿を明確にして適切な評価をする。

## 〈単元構想のポイント〉 (指導案形式例：国語科)

- 1 単元名
- 2 単元を貫く言語活動とそのねらい(国語科)
- 3 単元について
  - (1)教材観
  - (2)児童観
  - (3)指導観
- 4 単元の指導目標  
領域ごとの指導事項を参照
- 5 単元の評価観点・評価規準

国語科だけは、言語活動が目的になり手段にもなります。

〈単元の本質に迫るためのポイント〉  
国語科においては、単元を貫く言語活動を設定することが単元の本質に迫る手段です。

例：6年 海の命

2 単元を貫く言語活動とそのねらい

- 単元を貫く言語活動  
「立松作品のパフレットをつくろう」
- ねらい

登場人物の生き方や考えの変容、優れた表現に気づき、作品のよさについて自分の考えをまとめることができる。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
～しようとしている。	～している。 ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料参照	～している。

## 〈実態把握を授業に生かすポイント〉

実態把握は、単元構想の基礎になるものです。多面的に児童の実態を把握してください。

- 児童生徒のつまずきだけでなく、個々のよさを認め、さらに伸ばすという視点をもってください。
- 授業の学習形態や方法等の選定に活用してください。
- 実態を分析し、実態に応じた活動内容や言語活動の位置付けを行ってください。

## 6 単元の指導計画・評価計画

単元を貫く言語活動	時	主な学習活動	評価規準・評価方法
			※ 学習指導要領の指導事項と言語活動の関連を十分に考慮して評価する。

教材研究をすればするほど教材そのものの内容を指導しがちですが、大切なことはその教材で何を身に付けさせるかです。物語で言うと主題を読み取らせるだけではなく、主題の読み取らせ方を身に付けさせたいものです。

## 7 本時のねらい

## 8 学習過程

ここにも、単元を貫く言語活動を記入すると意識が高まります。(国語科)

主な学習活動	時	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
			□評価

## 9 板書事項等

単元を貫く言語活動に関わる言語活動を1単位時間の中に設定しましょう。

## 〈評価計画作成のポイント〉

学習内容を習得した後の子どもの姿を想定することが、評価計画作成の第一歩です。

- 求める子どもの姿の具体例
  - ・ 根拠を基に登場人物の変容をとらえ、自分の考えを深めノートにまとめることができる。
  - ・ 作品のよさをまとめ、友達との交流を通して自分の考えを付加、修正することができる。